

2020年度第1回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議（なにわECOスクエア）議事要旨

日 時：2020年10月14日（水）10～12時

開催形式：オンライン（zoom ウェビナー）

参加者：参加者27人

共有資料：【資料1】2050年の大阪市のめざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」

【資料2】大阪市生物多様性戦略について

【資料3】大阪市立扇町総合高等学校における生物多様性授業

【資料4】小学校教育における生物多様性の取り扱い

【資料5】小学校生き物さがし

議事概要：

●開会（大阪市よりあいさつ）

本市では、2018年3月に策定した「大阪市生物多様性戦略」に基づき、生物多様性の保全に向けたネットワーク会議を立ち上げた。多様な主体が参画できる仕組みを構築したいと実施してきたが、新型コロナウイルス対策のため2019年3月より中止していた。今回初めての試みでオンライン開催としたが、忌憚のない意見交換が出来るよう、よろしくお願い申し上げます。

●基調講演「生物多様性の恵みを感じるまち 2050年の大阪とは？」（大阪府立大学 平井規央教授）

資料1に基づき、大阪における生物多様性の状況や取組みについて講演。

（質疑応答）

【質問】生物の多様性の損失はどのように計測するのか？

【回答】3つの多様性（生態系・種・遺伝子）のうち種の多様性だけを使った計測となる。100万種中1年に1種絶滅するかどうかという化石時代の種数変化と、現在の1日に何種も絶滅という種数変化を用いて計算すると、現在の損失スピードが100～1,000倍であるといった計算である。地球上のすべての種数は分かっていないが、推定値から推定値を引いて割合を出すと、損失は70%近いのではないかという計算となる。私達が生きている間に種の多様性が増えることは、もう無いと考えている。

【質問】廃プラスチックの減量は、グリーンリカバリーの概念に沿った取組みか。

【回答】レジ袋等廃プラスチックの減量は、化石燃料の消費量削減やゴミ削減、海洋生物の誤飲を防ぐなど、生物多様性に対して直接的影響を与えるもの。グリーンリカバリーとは、落ち込んでいる経済を立て直す時に既存の手法ではなく、SDGsや生物多様性などに配慮した手法を取り入れるという考え方である。将来、様々な災害が起こると考えられるが、その際自然や気候変動等への配慮をしながら経済復興に取り組む事を言う。現在コロナ禍にあり、経済が立ち止まった状態なので考え方を考える事でより良い社会にしていこうというものである。

●報告「大阪市生物多様性戦略の改定について」（大阪市環境局環境施策部環境施策課）

資料2に基づき、大阪市生物多様性戦略にかかる取組みの進捗及び今後の計画策定について説明。

（質疑応答）

【質問】大阪市と大阪府の地域戦略のすり合わせがあるかどうか知りたい。

【回答】大阪府では、2021年頃に予定されている生物多様性国家戦略同様、次年度に地域戦略を改定する予定と聞いている。なお、適宜府市での情報共有を行っている。

●事例紹介①「高等学校における生物多様性学習」（大阪市エコボランティア 中谷恵一）

資料3に基づき、高等学校における生物多様性授業について事例紹介。

（質疑応答）

【質問】副読本「おおさか環境科」について、ネット配信される予定はないか。また、ダウンロード形式ではなく、ホームページ上で閲覧できればありがたい。

【回答（大阪市より）】副読本「おおさか環境科」について、大阪市環境学習情報サイト「なにわエコスタイル」に掲載している。

(<https://www.naniwa-ecostyle.net/%e3%81%8a%e3%81%8a%e3%81%95%e3%81%8b%e7%92%b0%e5%a2%83%e7%a7%91%ef%bc%88%e7%92%b0%e5%a2%83%e5%ad%a6%e7%bf%92%e5%89%af%e8%aa%ad%e6%9c%ac%ef%bc%89/>)

●事例紹介②「小学校における生物多様性学習」（大阪市エコボランティア 忍喜博）

資料4に基づき、小学校における生物多様性学習について事例紹介。

（質疑応答）

【質問】全小学校で副読本「おおさか環境科」が有効に活用されていないのはなぜか。

【回答】年度末に副読本を受け取り、そのまま次年度の担当教員が変わってしまうことで、活用されない場合があるようだ。

【質問】小学校での環境教育を推進するために、大阪市エコボランティア、また他の環境教育実施団体から小学校に働きかけ（プログラムの提案・実施支援等）をする上での工夫などあったら教えていただきたい。

【回答】学校では教育委員会以外の組織からの依頼だと受け入れづらいという場合がみられる。大阪市は出前授業のパンフレットを作成したりしているが、環境教育メニューは少なく理科室での実験といった内容が中心となっている。なにわECOスクエア、自然史博物館、動物園など大阪市の社会教育施設での紹介から始めると良いが、これらを訪れる教師は少なく授業の組み立ての中での利用もなかなかされていない。地域人として学校の保護者や、校庭管理者等に接触するという手もあるが、そこから授業につなげることには課題があると感じる。

●事例紹介③「学校教育における生物多様性学習の状況」（環境科学研究センター 榎元慶子）

資料5に基づき、小学校における生き物さがしについて事例紹介。

【ご意見】

・PTA や地域住民の参加を使って地域教育の助けにするという視点は面白そう。教員の皆さんの負担も軽減できそうだ。

・学校・公園での不自然な自然作りがかなり見られた。

●参加者アンケート「学校教育における新しい取組み」について、新しい活動や連携の提案

会議終了後に参加者に回答いただき、第2回の本会議実施時に結果をとりまとめてご報告する旨を説明。

●次回案内

第2回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議の予定：2020年11月16日（月）午前10時から（開催：オンラインにて実施予定）